



2019年12月期 第1四半期 決算説明会資料

荏原 (6361)

2019年5月14日

Looking ahead,
going beyond expectations
Ahead > Beyond

株式会社 荏原製作所

目次



1. 決算サマリ		4. 補足資料	
① 全社	P3	セグメント別数値サマリ	
② セグメント別	P4	① 受注高	P9
2. セグメント別業績説明		② 売上高	P10
① 風水力	P5	③ 営業利益	P11
② 環境プラント	P6	④ 受注残高	P12
③ 精密・電子	P7	⑤ 売上先所在地別売上高	P13
3. 業績見通し	P8	5. 今後の経営方針について	P14

✓ 本資料で<参考値>として示す数値は、2018年12月期の業績を前年度同一期間と比較するために、2017年12月期（変則9か月決算）の実績を2017年1月から12月に組み替えた数値（非監査）です。

✓ 略語の説明

➢ FY：会計年度（例 「FY19」は19年12月期会計年度）

➢ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している

1. 決算サマリ 全社			
FY19 1Q業績		決算のポイント	
(単位：億円)	FY18 1Q	FY19 1Q	増減
受注高	1,588	1,170	- 417
売上高	1,302	1,301	- 0
営業利益	79	91	+ 11
売上高営業利益率	6.1%	7.0%	+ 0.9pts
経常利益	80	103	+ 22
親会社株主に帰属する 四半期純利益	61	67	+ 5
平均為替レート	USD1=JPY108.7 USD1=JPY110.8		

<p><市場環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 石油・ガス市場における設備投資は回復傾向 ✓ 半導体市場はメモリメーカーの投資減速により低調 <p><業績></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 風水力事業を中心に増益 ✓ 環境プラント事業の受注は、例年並みの水準（前期は大型案件を複数受注し、高水準） ✓ 精密・電子事業で大幅な受注減少

3 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved	Looking ahead, going beyond expectations <i>Ahead > Beyond</i>
---	--

決算サマリ 全社：

受注高：1,170億円(前年同期比▲417億円)

売上高：1,301億円(同▲0億円)

営業利益：91億円(同+11億円)、営業利益率7.0%

親会社株主に帰属する四半期純利益：67億円（同+5億円）

■ ポイント

<市場環境>

- 石油・ガス市場における設備投資は昨年に続いて回復傾向
- 半導体市場はメモリメーカーの投資減速により低調に推移

<業績>

- 受注高は環境プラント事業と精密・電子事業で大幅減少。精密・電子事業の減少は市場の影響を大きく受けたものの、環境プラント事業においては前年同期の受注が例外的に高水準だったため
- 風水力事業を中心に収益性の改善が進み増益

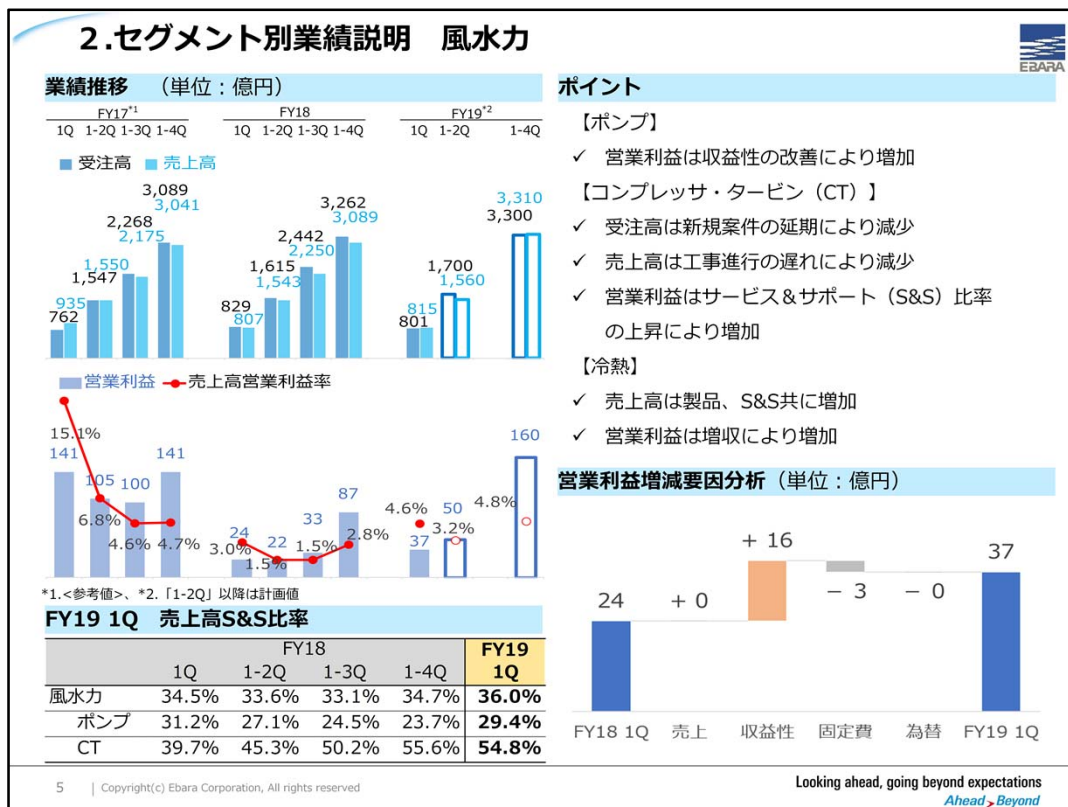
1. 決算サマリ セグメント別



(単位：億円)	FY18 1Q	FY19 1Q	増減
全社			
受注高	1,588	1,170	- 417
売上高	1,302	1,301	- 0
営業利益	79	91	+ 11
売上高営業利益率	6.1%	7.0%	+ 0.9pts
風水力			
受注高	829	801	- 27
売上高	807	815	+ 8
営業利益	24	37	+ 13
売上高営業利益率	3.0%	4.6%	+ 1.6pts
環境プラント			
受注高	348	126	- 222
売上高	182	191	+ 9
営業利益	18	22	+ 4
売上高営業利益率	10.0%	11.8%	+ 1.8pts
精密・電子			
受注高	406	239	- 167
売上高	308	290	- 17
営業利益	36	30	- 5
売上高営業利益率	11.7%	10.6%	- 1.1pts
その他、調整			
受注高	4	4	- 0
売上高	4	4	- 0
営業利益	0	0	- 0
売上高営業利益率	15.8%	6.3%	- 9.5pts

決算サマリ セグメント別：

- 受注高は3事業ともに減少
- 半導体市場の減速に伴い投資が縮小し精密・電子事業で減収減益
- 風水力および環境プラント事業では共に増収増益



セグメント別業績説明 風水力:

受注高: 801億円 (前年同期比▲27億円)

売上高: 815億円 (同+8億円)

営業利益: 37億円 (同+13億円)

<ポンプ事業>

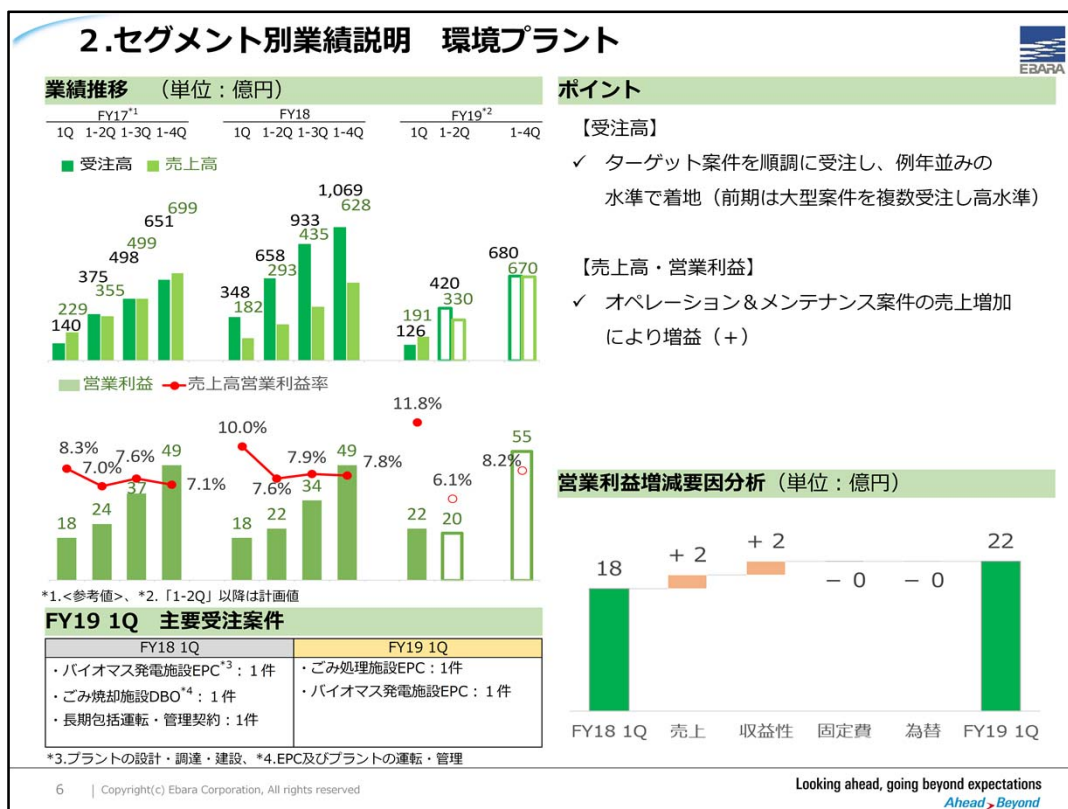
- 石油・ガス市場向けの受注・売上増を中心に収益性の改善が進み増益

<コンプレッサ・タービン事業>

- 新規案件の発注時期の延期により受注が減少
- 工事進行の遅れにより製品の売上が減少
- 収益性の高いサービス&サポートの売上が順調に積み上がったことにより利益改善が進む
- CT事業における1QのS&S比率は前年同期39.7%から54.8%まで上昇

<冷熱事業>

- 中国市場向けの製品の拡販、国内更新需要の着実な取り込みにより受注、売上、営業利益はいずれも前年同期を上回る



セグメント別業績説明 環境プラント:

受注高: 126億円 (前年同期比 ▲222億円)

売上高: 191億円 (同+9億円)

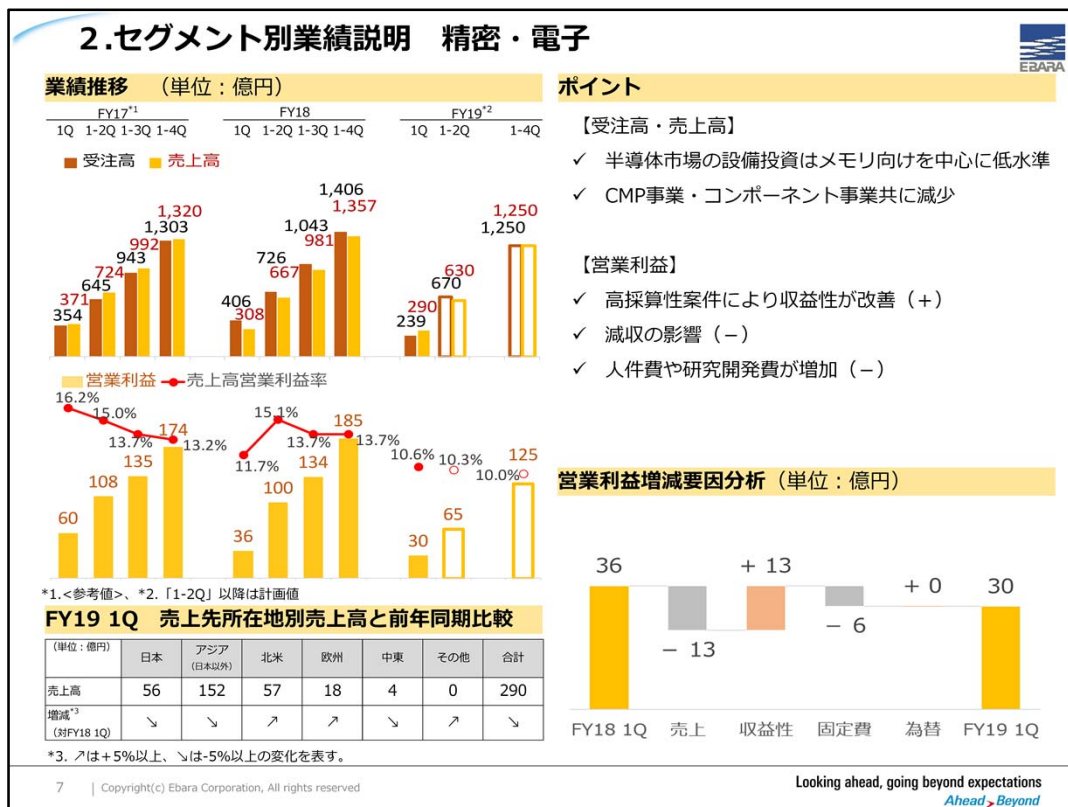
営業利益: 22億円 (同+4億円)

<受注高>

- 前年同期はDBO案件や長期包括運転・管理契約によるオペレーション&メンテナンス (O&M) などの大型案件を複数受注したため、過去の水準と比べても高い水準
- 1Qは計画どおりに受注しており例年並みの水準で着地
- 主な受注案件は民需のEPC案件を2件受注

<売上高・営業利益>

- O&Mの売上が増加したことにより順調に収益を伸ばす



セグメント別業績説明 精密・電子：

受注高：239億円（前年同期比 ▲167億円）

売上高：290億円（同 ▲17億円）

営業利益：30億円（同▲ 5億円）

<受注高>

- 半導体市場の設備投資はメモリ・ロジックともに減少
- 特にメモリ向けを中心に顧客が投資を控えている状況が継続

<売上高・営業利益>

- 高採算性案件の売上により一部収益性が改善
- 減収の影響に加え、人件費や研究開発費の増加により減益

3. 業績見通し



(単位：億円)	1-2Q					1-4Q		
	FY18 実績	FY19 計画		増減		FY18 実績	FY19 計画	増減
	a	b	c	c-b	c-a	d	e	e-d
発表日(年/月/日)		19/02/13	19/05/14				19/02/13	
受注高	3,008	2,800	2,800	-	- 208	5,755	5,250	- 505
売上高	2,512	2,580	2,530	- 50	+ 17	5,091	5,250	+ 158
営業利益	147	135	135	-	- 12	324	340	+ 15
売上高営業利益率	5.9%	5.2%	5.3%	+ 0.1pts	- 0.5pts	6.4%	6.5%	+ 0.1pts
経常利益	141	130	130	-	- 11	312	330	+ 17
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	80	80	-	+ 5	182	200	+ 17
ROIC	-	-	-	-	-	4.9%	5.6%	+ 0.7pts
ROE	-	-	-	-	-	6.6%	7.2%	+ 0.6pts
DELシオ (倍)	-	-	-	-	-	0.28	0.28	-

- ✓ 上期売上高計画を50億円下方修正
- ✓ 通期計画は変更無し

8 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations
Ahead Beyond

業績見通し：

2月に公表した2019年12月期の業績見通しからの変更点は以下のとおり

<受注高の上期計画値修正>

- コンプレッサ&タービン事業の上期計画値を700億円から630億円に下方修正 (期初計画値から70億円減)
- 環境プラント事業の上期計画値を350億円から420億円に上方修正 (期初計画値から70億円増)

<売上高の上期計画値修正>

- 精密・電子事業の上期計画値を350億円から300億円に下方修正 (期初計画値から50億円減)

→通期業績見通しについては受注高、売上高、営業利益いずれも変更なし

4. 補足資料：セグメント別 数値サマリ



受注高

(単位：億円)	1Q			1-2Q					1-4Q		
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画		増減		FY18 実績	FY19 計画	増減
	a	b	b-a	c	d	e	e-d	e-c	f	g	g-f
発表日(年/月/日)					19/02/13	19/05/14				19/02/13	
全社	1,588	1,170	- 417	3,008	2,800	2,800	-	- 208	5,755	5,250	- 505
風水力	829	801	- 27	1,615	1,770	1,700	- 70	+ 84	3,262	3,300	+ 37
ポンプ	441	439	- 2	849	850	850	-	+ 0	1,710	1,750	+ 39
CT	267	239	- 27	507	700	630	- 70	+ 122	1,027	1,100	+ 72
冷熱	85	89	+ 3	194	160	160	-	- 34	375	330	- 45
その他	34	33	- 1	62	60	60	-	- 2	149	120	- 29
環境プラント	348	126	- 222	658	350	420	+ 70	- 238	1,069	680	- 389
精密・電子	406	239	- 167	726	670	670	-	- 56	1,406	1,250	- 156
コンポーネント	171	127	- 43	307	290	290	-	- 17	628	570	- 58
CMP	221	97	- 123	387	350	350	-	- 37	720	620	- 100
その他	14	13	- 0	31	30	30	-	- 1	57	60	+ 2
その他、調整	4	4	- 0	8	10	10	-	+ 1	16	20	+ 3

- ✓ コンプレッサ・タービン事業（CT）の上期計画を70億円下方修正
- ✓ 環境プラント事業の上期計画を70億円上方修正

4. 補足資料：セグメント別 数値サマリ



売上高

(単位：億円)	1Q			1-2Q					1-4Q		
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画		増減		FY18 実績	FY19 計画	増減
	a	b	b-a	c	d	e	e-d	e-c	f	g	g-f
発表日(年/月/日)					19/02/13	19/05/14				19/02/13	
全社	1,302	1,301	- 0	2,512	2,580	2,530	- 50	+ 17	5,091	5,250	+ 158
風水力	807	815	+ 8	1,543	1,560	1,560	-	+ 16	3,089	3,310	+ 220
ポンプ	509	510	+ 0	905	900	900	-	- 5	1,720	1,760	+ 39
CT	185	172	- 12	406	450	450	-	+ 43	876	1,100	+ 223
冷熱	75	88	+ 13	167	150	150	-	- 17	358	330	- 28
その他	37	44	+ 6	63	60	60	-	- 3	134	120	- 14
環境プラント	182	191	+ 9	293	330	330	-	+ 36	628	670	+ 41
精密・電子	308	290	- 17	667	680	630	- 50	- 37	1,357	1,250	- 107
コンポーネント	149	146	- 2	306	300	300	-	- 6	593	570	- 23
CMP	146	130	- 16	321	350	300	- 50	- 21	698	620	- 78
その他	11	13	+ 1	38	30	30	-	- 8	65	60	- 5
その他、調整	4	4	- 0	8	10	10	-	+ 1	16	20	+ 3

✓ CMP事業の上期計画を50億円下方修正

4. 補足資料：セグメント別 数値サマリ



営業利益

(単位：億円)	1Q			1-2Q			1-4Q		
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画	増減	FY18 実績	FY19 計画	増減
	a	b	b-a	c	d	d-c	e	f	f-e
発表日(年/月/日)					19/02/13			19/02/13	
全社	79	91	+ 11	147	135	- 12	324	340	+ 15
風水力	24	37	+ 13	22	50	+ 27	87	160	+ 72
ポンプ	43	51	+ 7	52	45	- 7	59	100	+ 40
CT	-28	-12	+ 15	-41	0	+ 41	19	35	+ 15
冷熱	-2	2	+ 4	1	5	+ 3	4	20	+ 15
その他	11	-2	- 14	10	0	- 10	4	5	+ 0
環境プラント	18	22	+ 4	22	20	- 2	49	55	+ 5
精密・電子	36	30	- 5	100	65	- 35	185	125	- 60
その他、調整	0	0	- 0	1	0	- 1	2	0	- 2

✓ 今回変更無し

4. 補足資料：セグメント別 数値サマリ



受注残高

(単位：億円)	1Q			2Q					4Q		
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画		増減		FY18 実績	FY19 計画	増減
	a	b	b-a	c	d	e	e-d	e-c	f	g	g-f
発表日(年/月/日)					19/02/13	19/05/14				19/02/13	
全社	4,202	4,470	+ 267	4,427	4,810	4,860	+ 50	+ 433	4,590	4,590	-
風水力	1,935	2,090	+ 154	1,997	2,303	2,233	- 70	+ 236	2,093	2,083	- 10
ポンプ	951	904	- 47	960	951	951	-	- 8	1,001	991	- 10
CT	756	941	+ 184	791	1,093	1,023	- 70	+ 231	843	843	-
冷熱	164	171	+ 6	179	177	177	-	- 2	167	167	-
その他	63	73	+ 10	65	81	81	-	+ 16	81	81	-
環境プラント	1,869	2,078	+ 209	2,067	2,163	2,233	+ 70	+ 166	2,143	2,153	+ 10
精密・電子	397	301	- 95	362	343	393	+ 50	+ 30	353	353	-
その他、調整	0	0	+ 0	0	0	0	-	- 0	0	0	-

- ✓ コンプレッサ・タービン事業（CT）の上期末計画を70億円下方修正
- ✓ 環境プラント事業の上期末計画を70億円上方修正
- ✓ 精密・電子事業の上期末計画を50億円上方修正

4. 補足資料：セグメント別 数値サマリ



売上先所在地別売上高

(単位：億円)	FY19 1Q				
	風水力	環境プラント	精密・電子	その他、調整	合計
合計	815	191	290	4	1,301
日本	436	186	56	1	681
アジア（日本以外）	195	5	152	1	355
北米	62	-	57	0	120
欧州	46	-	18	0	65
中東	45	-	4	0	50
その他	28	-	0	0	28

荏原のミッション

技術で、熱く、世界を支える

今後の経営方針について：

<荏原グループのミッション>
「技術で、熱く、世界を支える」

<背景>

- ▶ これからの世界は、「あらゆるモノがつながるIoT」「それを支えるクラウド」「人工知能」「車の自動運転」「5G」などの技術革新によって、より多くの人々が、より豊かな生活を送ることができるようになると思う
- ▶ そのような世界を実現させ、持続させるための荏原のミッションである

当社の社員が夢を持ち、ステークホルダーと良好な関係を維持し続けられる会社を目指す

技術で、熱く、世界を支える

E-Vision2030の策定

10年後、更にその先を見据えた
経営方針・事業戦略を策定

風水力事業の改革

収益性を改善し、5大陸で
「社会・産業・暮らし」を支える
インフラプロバイダへ

(継続) ESG経営の進化

- E : 地球環境と調和する事業活動
- S : 「競争し、挑戦する企業風土」への変革を促進
- G : より透明性・公正性の高い監督機能を発揮

技術で、熱く、世界を支える

E-Vision2030の策定

技術革新やビジネスモデルなど、事業を取り巻く環境はドラスティックに変化してきており、10年先、更にはその先の市場環境や社会課題を見据えた長期の経営ビジョンが不可欠

⇒来期からの3年間の新中期経営計画(E-Plan2022)策定に合わせ、2030年のありたい姿を「E-Vision2030」として策定する

- ★ 100余年の歴史の中で築き上げてきた高い技術力を更に磨き上げ、知能化をキーワードに、外部環境・顧客の動向を先取りするソリューションを生み出せる組織・人材を育てていく

技術で、**熱く**、**世界を支える**

風水力事業の改革



収益性改善

カスタムポンプ事業、コンプレッサ・タービン事業の収益性改善が喫緊の課題
⇒迅速且つ粘り強く、改善策を実行



デジタル化

デジタル化を推進し、事業効率を向上
⇒自動化工場を軸に開発からS & Sまで、AI・ITを活用



グローバル化

グローバルトップメーカをめざし、世界中で事業展開を加速
⇒ポンプ事業の海外拠点の更なる増強 等

**世界中で、5大陸で、荏原の製品をより多く使用してもらい、
「社会・産業・暮らし」を支えるインフラプロバイダへ**

(継続) ESG経営の進化

E

環境経営の推進

- ごみ焼却発電の効率化や省エネ製品の開発など、地球にやさしい社会インフラの提供
- 自動化などによる低環境負荷生産体制の構築

地球環境と調和する
事業活動

S

企業風土の変革

- 全ての社員の働きがい、働きやすさを向上
⇒ 実力主義の人事制度、ダイバーシティ・働き方改革の推進
- ERP等のデジタル化による業務プロセス改革

「挑戦し、競争する
企業風土」への
変革を推進

G

ガバナンス強化

- 業務執行を兼務する取締役を3名から1名に
⇒ 独立社外取締役が11名中7名を占める
- 独立社外取締役が取締役会議長を務める

取締役会が
より透明性・公正性の
高い監督機能を発揮

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。